

大東文化大学経営研究所所報

No. 48 2024年3月

目次

所長巻頭言	所長 長谷川 礼	1
経営研究所の活動報告（2023年度）.....	研究部会長 清水 真人	2
退職にあたって	南隅 基秀	3
私の研究	関口 直樹	4
研究員の活動報告		5
研究員紹介		10

外国人とともに働く職場の未来を考える

経営研究所長 長谷川 礼

近年、高度成長とともに広く採用された日本型経営の歪みが表面化し、その非グローバル性が指摘されています。日本型経営慣行の中には年功序列制やジョブローテーションといった一部の外国人には合理性が理解できないとされるものもあります。私たちは、日本の経営慣行が諸外国の制度と異なることに着目し、働き方が類似している国の間での労働移動では問題とならないことでも、日本で働く外国人材の場合には、出身国との違いがキャリア形成やスキル獲得において重くのしかかってくる可能性も否定できないと考えます。

2023年12月16日、大東文化会館において「グローバル経営の明日を拓く—外国人とともに働く職場の未来」と題するシンポジウムを開催しました。開催にあたり、この分野で最先端の活動をされている多文化社会研究会のご協力を仰ぎました。さらに、日本で働く外国人の方々、外国人の採用・教育の経験豊富な人事責任者にご登壇いただき、盛会のうちにシンポジウムを終えることができました。心より御礼申し上げます。

日本企業の経営の変容を念頭に置き、日本で働く外国にルーツをもつ方々がより充実したキャリア形成を目指せる社会が到来することを願いつつ、来年度もこのテーマをさらに掘り下げてまいりたいと存じます。

経営研究所の活動報告（2023年度）

研究部会長 清水 真人

1. 研究会活動

2023年4月25日（火）第1回研究部会
2023年5月30日（火）第2回研究部会
2023年6月27日（火）第3回研究部会
2023年10月31日（火）第4回研究部会
2024年1月30日（火）第5回研究部会

なお、第2回、第3回、第4回において以下の会員による研究発表をおこなった。

2023年5月 山口貴史
2023年6月 関口直樹
2023年10月 山崎雅教

2. 学生による研究発表会

経営学部の学生による研究発表会をおこなった。学生から17組の研究発表があった。

2023年12月2日（土）板橋校舎3号館で開催した。

3. 共同シンポジウムの開催

「グローバル経営の明日を拓く～外国人とともに働く職場の未来～」を開催した。

2023年12月16日（土）大東文化会館ホール

登壇者：川村千鶴子（大東文化大学名誉教授、多文化多文化社会研究会理事長）、

チョウ チョウ ソー（NHK国際放送ビルマ語キャスター、レストランルビー店主）、

村元 エリカ マリア（上武大学講師、群馬大学非常勤講師）

バト デリガル（株式会社トーコン 川崎事業所所長、本学卒業生）

万城目正雄（東海大学教養学部教授）

井上 健（アサヒロジスティクス（株）人財本部採用育成グループグループ長）

4. 叢書

40巻「日本における外国人材のキャリア形成に関する予備的考察」長谷川礼、ジョーゼフ・ウィリアムソン、ジェームス・マクロステイー、清水真人

退職にあたって

南隅 基秀

経営学部経営学科には、2019年から5年間在籍させていただきました。法務研究科から移籍した際には、全力で教育に取り組んでいただけない、正直申しまして、かなり気落ちしておりました。経費の累積赤字は、制度設計時からのもので如何ともし難いものがありましたが、数少ない昼夜開講の法科大学院としては、それなりの社会貢献を果たしてきた自負もありました。募集停止阻止のために、ずいぶん大学・学園当局とも話し合いを重ねておりましたが、不意打ち的に理事会決定で募集停止になったことには、ショックを受けました。

移籍先として、経営学科が私を受け入れてくださり、大変感謝をしております。当時の学部長であった永田先生や高沢先生、学科主任の山田先生をはじめ、教員の皆様、歴代の事務長をはじめとする職員の方々、皆様が、よそから来た教員として差別することなく公平に扱ってくださり、かつ、尊重と優しい思いやりの数々を感じ取りました。素晴らしい学科に移籍することができて、私は本当に幸せ者です。

経営学科における教育につきまして、法学部以外の学生を教えたことがない私にとっては、法律を学ぼうとして入学してきたのではなく、基礎法学教育も受けていない経営学科の学生に、法律学を教えることはチャレンジでした。これは、法科大学院での教育の苦労とは別次元の工夫と努力が必要でした。しかし、このことは、元々学生を教えることが好きであった私に、新たな活力を与えてくれ、その意味で充実した教員生活を送ることが可能になりました。経営学科の学生たちにも大変感謝しております。

改めまして、経営学科には、心よりの感謝を申し上げます。それとともに、今後の経営学科のご繁栄とご発展、さらに大東文化大学のご発展を、心より祈念しております。

私の研究

関口 直樹

1. これまでの研究

鉄鋼業界での実務経験を活かし、これまでグローバルな観点から鉄鋼業に関する研究を行ってきました。研究を始めたきっかけは、OECDでの勤務中に、当時の上司であった Anthony de Carvalho 氏 (Head of the Steel Unit) と共に行った鉄鋼貿易における比較優位に関する研究です (de Carvalho and Sekiguchi, 2015)。この研究では、Balassa (1965) に基づく顕示的比較優位 (Revealed Comparative Advantage: RCA) 指数を用いて、主要輸出国・地域の貿易パターンを明らかにしました。これにより、例えば日本は鉄鋼業界における代表的な品種である熱延薄板類や付加価値の高い電磁鋼板等、トルコは主に建設業で使用される棒鋼や形鋼等、ロシアやウクライナは鋼材に加工される前の半製品等において比較優位を持つことを示しました。

その後、博士課程に進み、鉄鋼貿易や技術選択の観点から新興国・発展途上国 (非 OECD 諸国) 鉄鋼業のキャッチアップについて研究を進めました。博士論文のテーマは "Catch-Up of the Steel Industry in Non-OECD Countries in the 21st Century: Development in Steel Trade and the Role of Technology" です。この研究では、20 世紀後半から 21 世紀初頭にかけて、非 OECD 諸国の鉄鋼業が技術選択を通じてどのようにキャッチアップしたかを、貿易の高度化を主要指標として分析しました。鋼材を生産する方法には、鉄鉱石や石炭を主原料とする高炉・転炉法や、鉄スクラップを主原料とする電炉法等があります。博士論文の結論として、非 OECD 諸国の鉄鋼業においてキャッチアップを遂げたのは、中国をはじめとする少数の諸国に過ぎないということ、そしてそのキャッチアップは高炉・転炉法の選択によって直ちに実現したのではなく、長い発展の過程を経て、高炉・転炉法が大型設備を備えた最新技術と呼べる水準に達することによって実現したことを明らかにしました。

2. 今後の展望

今後は、世界鉄鋼業における過去の技術選択パターンを分析する予定です。現在、世界鉄鋼業においてはカーボンニュートラルの実現に向け、将来の生産技術に関する議論が活発に行われています。将来の生産技術について議論するためには、まず過去にどのような技術選択が行われてきたのかを明らかにする必要があります。この研究を進め、その成果を各国の政府や鉄鋼業界関係者が出席する OECD 鉄鋼委員会等の国際会議や学会で発表したいと考えています。

鉄鋼業の研究に加え、国際マーケティングに関する研究も進めています。これまでの海外駐在経験やネットワークを活かし、グローバルな観点から情報収集・分析を行い、国際マーケティングの研究を深めていきたいと思えます。

研究員の活動報告

五十嵐 正毅

【論文】

1. 松本大吾・五十嵐正毅・坂井直樹「広告定点観測—2022年9月から半年間の広告をレビューする」『日経広告研究所報』, 第328号, pp.2-17, 2023.
2. 松本大吾・五十嵐正毅・坂井直樹「広告定点観測—2023年3月から半年間の広告をレビューする」『日経広告研究所報』, 第331号, pp.2-19, 2023.

【研究ノート】

1. 五十嵐正毅 研究ノート「日本の広告法規」『経営論集』（大東文化大学経営学会）, 第44号, pp.105-115, 2023.

【その他】

1. 五十嵐正毅「BOOK REVIEW ジェニファー・アーカー、ナオミ・バグドナス著『ユーモアは最強の武器である』」『日経広告研究所報』, 第327号, p.58, 2023.
2. 五十嵐正毅「BOOK REVIEW 鳥海不二夫・山本龍彦著『デジタル空間とどう向き合うか—情報的健康の実現を目指して』」『日経広告研究所報』, 第329号, p.66, 2023.
3. 五十嵐正毅「BOOK REVIEW 李津娥編著『クリティカル・オーディエンス—メディア批判の社会心理学』」『日経広告研究所報』, 第331号, p.56, 2023.

國府 俊一郎

【論文】

1. 國府俊一郎「トラックドライバーの時間外労働規制はディーセントワークを実現させるか」『経営論集』第44号, 大東文化大学経営学会, pp.15-31, 2023年3月.
2. 國府俊一郎「台湾におけるICT産業の成長が労働市場及び高等教育への進学に与えた影響の検証」, 『九州経済学会誌』, 第61号, pp.17-26, 2023年12月.

【書評・そのほか】

1. 國府俊一郎「研究者としてのキャリアと外部資金」『労務理論学会誌』, 第32号, pp.129-136, 2023年5月.

【学会発表】

1. 國府俊一郎「中小物流企業の労務管理における課題-24年問題に臨んで-」第33回 労務理論学会全国大会（於沖縄大学）2023年6月24日.
2. 國府俊一郎「台湾におけるインターンシップの採用への活用-サービス系企業を中心に-」アジア経営学会、第30回全国大会、（於慶應義塾大学三田キャンパス）2023年9月16日.

佐藤 史子

1. Sato, Fumiko, "Two Ways of Understanding Japanese Decorative Art in Victorian Britain", 『経営論集』, NO.44, pp.33-44, 2023.

白井 康之

【英語論文】

1. Suzuki,T., Amai.Y., Shirai,Y., Kawabe,R., Ishihara,M., Goto, Y., "Estimating the price sensitivity of e-commerce site users based on anomaly detection methods using probability ellipses", 23rd Asia Pacific Industrial Engineering & Management System Conference (APIEMS 2023), October 22nd - 26th, 2023

【その他】

1. 名越翔, 森田裕之, 白井康之, "店舗内エリアの滞在時間に着目した購買行動シミュレーションモデル", 第31回社会システム部会研究会, 2023年3月5-7日
2. 森田裕之, 白井康之, 楠木祥文, 河合亜矢子, 後藤裕介, "CBAIによる社会的重大イベントの影響に関する分析", 経営情報学会 2023年全国研究発表大会, 2023年11月12日
3. 白井康之, 河合亜矢子, 森田裕之, 楠木祥文, 後藤裕介, "時系列売上データのSTL分解に基づく商品分類", 経営情報学会 2023年全国研究発表大会, 2023年11月12日

清水 真人

【日本語論文】

1. 清水真人・土井義夫・岩尾詠一郎「自宅以外の受取場所の利用促進に必要な情報提供時期と内容に関する研究」『日本物流学会誌』第30号, pp- 2023年6月
2. 清水真人「大規模マンションにおける荷さばき活動の実態に関する研究」『第43回交通工学研究会発表論文集(研究論文)』, pp.747-752, 2023年8月
3. 清水真人・岩尾詠一郎「駐車場附置義務の地域ルールにおける荷捌き駐車施設数の設定方法の比較」『第40回日本物流学会 全国大会研究報告集』, pp.101-104, 2023年9月

平 靖之

【論文】

1. 平靖之・吉田昂平「廃ガラスを再利用したゼオライト複合体材料の吸着特性」『大東文化大学紀要 自然科学』, 第61号, pp.35-41, 2023.
2. 平靖之「無機蛍光体のマイクロスケール化学実験」『大東文化大学 教職課程センター紀要』, 第8号, pp.153-158, 2023.

【学会発表】

1. 平靖之「無機蛍光体のマイクロスケール化学実験」, 第9回関東磐越地区化学技術フォーラム, 2023年11月18日.

高沢 修一

【日本語論文】

1. 高沢修一「明治期の沖縄税制に対する儒教思想からのアプローチ —宮古諸島及び八重山諸島の定額人头賦課型年金制度（人头税）の分析—」『経営論集』第44号、pp.45-56、2023年3月

高田 茂臣

【論文】

1. 高田茂臣 (2023) 「蒙疆政権官吏の日中戦争」『東洋研究』第229号、pp. 27-44、2023年11月

高屋 康彦

【日本語論文】

1. 高屋康彦「地中に埋設した石灰岩の溶解速度に関する室内実験（第二報）—断続的な降雨環境—」『経営論集』第44号、pp. 115-121、2023.

中村 隆文

【著書】

1. Nakamura.T, System of human activity systems: A novel way to visualize invisible risks, Springer, ISBN:978-981-99-5133-8, 1st December 2023

【学会・論文】

1. 中村隆文 (2023) 「スカイスポーツの安全を実現する方法論とその効果」経営情報学会、2023年11月
2. 中村隆文 (2023) 「システムリスクを可視化する方法論の提案とICTシステムへの適用」『経営論集』第45号、pp.83-102、2024年3月

【口頭発表】

1. 【学会・論文】 1項と同じ

永田 清

【英語論文】

1. Kiyoshi Nagata, "Automatic Generating System of Information Security Policy", *Athens Journal of Technology and Engineering - Volume 10, Issue 4*, pp. 227-236, December 2023

【口頭発表】

1. Kiyoshi Nagata, "On Post-Quantum Cryptography with Error-Correcting Code", *The 1st International Conference on ICT Application Research (IAR 2023)*, 12th September, 2023, Awara-osen, Fukui
2. Kiyoshi Nagata, "Ontological Approach for Information Security e-Learning System", *International Congress on Education and Learning (ICEL - 2023)*, 24th -25th October 2023, Milan, Italy

榎屋 聡

【論文発表】

1. Satoshi Masuya, "Two Approaches to Estimate the Shapley Value for Convex Partially Defined Games", *Mathematics*, vol.12, 17, 2024.
2. M. Josune Albizuri, Satoshi Masuya, Jose M. Zarzuelo, "Values for Restricted Games with Externalities", *Group Decision and Negotiation*, 2023. <https://doi.org/10.1007/s10726-023-09864-8>

【口頭発表】

1. M. Josune Albizuri, Satoshi Masuya and Jose M. Zarzuelo, "The Bargaining Set and the Nucleolus for Partially Defined Cooperative Games", 18th European Meeting on Game Theory, Italy, June, 2023.
2. 榎屋聡, "不完備情報協力ゲームの近似 Shapley 値", 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2023 年春季研究発表会, 2-B-6, 東京, March, 2023.

山口 貴史

1. 山口貴史 「同業他社の株価が投資意思決定に与える影響」 『経営論集』、第 44 巻, pp. 69-81, 2023.
2. 山口貴史 「経営者の自発的開示行動についての理論的研究」 大阪大学大学院 経済学研究科 博士論文 2023.

山田 敏之

【論文】

1. 山田敏之「双面的リーダーシップとイノベーション創造：心理的安全性の媒介効果」『経営論集』, 44号, pp. 83-104, 2023.
2. 山田敏之「個人の双面性と従業員エンゲージメント：モデレータ要因としてのストレス対応力、心理的安全性の役割」『実践経営』, No.60, pp.7-21, 2023.
3. 『経営学と東洋の“道”に関する多角的研究』大東文化大学経営研究所研究叢書 39 (山田担当箇所：第5章「実証分析の理論的背景と方法」(pp.85-115)、第6章「組織の儒教風土とパフォーマンスの関係」(pp.117-155)、第7章「家父長型リーダーシップとパフォーマンスの関係」(pp.157-225)), 2023

【学会発表】

1. 山田敏之「イノベーション創造プロセスの推進と双面的リーダーシップの役割：調整媒介分析による因果経路の解明」実践経営学会第66回全国大会（於：摂南大学），2023年9月2日

渡邊 直人

【学会発表】

1. 渡邊直人・荻原啓佑「財務・非財務目標の設定と職務業績の関係：医療従事者を対象とした2期間データを用いた分析」日本医療バランスト・スコアカード研究学会・第20回学術総会（北海学園大学），2023年8月25日．
2. 渡邊直人・荻原啓佑「自己決定理論を用いた管理会計研究のレビュー：研究の現状と今後の展望」日本原価計算研究学会・第49回全国大会（福岡大学），2023年9月6日．

研究員紹介

所長 長谷川礼
部長 清水真人
専任研究員 青木幹喜 五十嵐正毅 國府俊一郎 崔 冬梅 佐藤史子 清水真人
ジェームス・マクロスティー 首藤禎史 ジョーゼフ・ウィリアムソン
白井康之 白坂 亨 関口直樹 平 靖之 高沢修一 高田茂臣 高屋康彦
永田 清 中村隆文 中村文彦 南隅基秀 長谷川礼 樋渡淳二
福井庸子 ダレン・マクドナルド 榎屋 聡 松崎友世 水谷正大
山崎雅教 山田敏之 山口貴史 山口由二 渡邊直人
客員研究員 石黒久仁子 内山研一 片岡泰彦 北野 康 谷郷一夫 中村雄貴
仁井田典子 橋本寿哉 フン・デイン・チョン 前川邦生 松尾敏充
戴 秋絹

大東文化大学経営研究所所報 No. 48

2024年3月31日 発行

編集発行 © 大東文化大学経営研究所

印刷 株式会社 サンワ

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-11-8

(03) 3265-1816 (Tel)

(03) 3265-1847 (Fax)